**2020年度　小熊英二研究会　卒業論文**

**香港市民が『Glory to Hong Kong』（願榮光歸香港）に託す民意とは何か？**

慶応義塾大学　総合政策学部4年

坂元祐

学籍番号 71603806

**要旨**

目的・方法

2019年8月31日、逃亡犯条例改正案をめぐる抗議運動の中で新たな国歌と呼ばれる歌が香港に誕生した。『Glory to Hong Kong』（香港に栄光あれ）と名付けられたこの歌は、素性を明らかにしないトーマスと名乗るミュージシャンによって作曲され、市民の民意を反映させるべく電子掲示板LIHKG（以下:連登）で5日間の意見交換が行われた後に完成した。インターネット上で曲が誕生したことは報じられているものの、どのような議論を経て曲が完成したのかは明らかになっていない。そこで本論文ではデモ歌『Glory to Hong Kong』が完成するまでに連登上でどのような議論が繰り広げられ、最終的に市民のどのような民意が歌詞に反映されたのかを明らかにした。

章の構成

第1章では研究背景、曲の概要の説明をした後に研究対象、研究方法を明確にした。そして、先行研究の検討として香港研究者によって香港アイデンティティはどのように研究されてきたのか、昨今の抗議活動はどのように研究されているのか検討を行った。第2章では2301件の全体構造を掴むための検討内容の分析を行った。初めに連登の概要、曲が誕生するまでの経緯を説明し、ユーザー情報の分析を行った。その後、議論の主な構成の分析、AIテキストマイニングUser Localによるテキストデータの分析を行った。ワードクラウド上では「響透」（響き渡る）が一番大きな文字となって出現した。第3章では議論を通して歌詞が変更された8箇所がそれぞれどのような過程を経て変更されたのかを明らかにした。また、歌詞の表現についても2箇所分析を行った。第4章では歌詞の変更以外にはどのような議論があったのかを5つの動きに注目して分析を行った。

結果

議論を経て受動的な表現が能動的な表現に変わり、デモのスローガンである「光復香港、時代革命」の文字が追加されたことから、自分たちの手で主体的に香港を取り戻すという民意が反映されたことが判明した。広東語版でも英語版でもフォーマルな歌詞にすべく、口語体よりは文語体で厳粛かつ明白な表現が採用されたこともわかった。その他にも、曲のキーを変える動きや英語版の歌詞が作られたことから、曲として響きが良いだけでなく国籍や性別を問わず皆で一緒に歌える歌にしたいという民意が反映されたと分析した。

キーワード

『Glory to Hong Kong』、香港アイデンティティー、電子掲示板　連登

**目次**

資料

1. 『Glory to Hong Kong』(願榮光歸香港)
2. 香港社会の概要（2016年）

第一章　序論

1-1. 研究背景

1-2. 曲の概要

1-3. 対象

1-4. 方法

1-5. 先行研究の検討

1-5-1. アイデンティティーに関する先行研究

1-5-2. 歌と抗議運動に関する先行研究

第二章　2300件の全体構造を掴むための検討内容の分析

* 1. . LIHKG（連登）について
	2. . 曲が誕生した経緯
	3. . ユーザー情報

2-4. 議論の構成

2-5. AIテキストマイニングによる分析

第三章　８箇所の歌詞の変更過程分析

3-1. 歌詞の草案と完成版の比較

3-2. それぞれの変更点の過程分析

3-2-1. 讓勇士 從沒退後→為信念　從沒退後

3-2-2. 香江→香港

3-2-3. 悍自由→捍自由

3-2-4. 來沉著應對→來全力抗對

3-2-5. 這一日　霧已除→要光復　這香港

3-2-6. 讓正義 獲救贖→為正義　時代革命

3-2-7. 萬世的不朽→萬世都不朽

3-3. 歌詞について

3-3-1.同行

3-3-2.光復香港時代革命

第四章　その他の議論

4-1. 歌詞に香港らしさを追求する動き

4-2. 曲の技術的アドバイス・お手伝いコメント

4-3. 国歌、独立に関する動き

4-4. 英語翻訳の動き

4-5. 二つの歌詞が誕生した経緯

第五章　考察

参考文献

終わりに

**資料1『Glory to Hong Kong』(願榮光歸香港)**

 A1 何以 這土地 淚再流

（なぜこの地に涙が止まらないのか）

何以 令眾人 亦憤恨

（なぜ怒りに震えるのか）

昂首 拒默沉 吶喊聲 響透

（顔を上げ、沈黙を破り 叫べ）

盼自由 歸於 這裡

（自由よ、ここにあれ）

A2 何以 這恐懼 抹不走

（なぜ恐怖に苛まれるのか）

何以　為信念　從沒退後

（なぜ信じて諦めないのか）

何解 血在流 但邁進聲 響透

（なぜ血を流してでも邁進し続けるのか）

建自由 光輝 香港

（自由で輝く香港のために）

B 在晚星 墜落 徬徨午夜

（星も見えぬ暗い夜に）

迷霧裡 最遠處吹來 號角聲

（霧のはるか向こうから聞こえる角笛）

"悍自由 來齊集這裡 來全力抗對

（自由のためにここへ集え、全力で戦え）

勇氣 智慧 也永不滅"

（勇気と知恵は永久に不滅だ）

A3 黎明來到 要光復　這香港

（夜明けだ、香港を取り戻せ）

同行兒女 為正義　時代革命

（みな正義のために、今革命を）

祈求 民主與自由 萬世都不朽

（どうか民主、自由が永遠であれ）

我願榮光歸香港

（香港に栄光あれ）

**資料2 香港社会の概要[[1]](#footnote-1)（2016年）**

正式名称　中華人民共和国香港特別行政区

元首　　　習近平国家主席

行政長官　林鄭月娥（Carrie Lam）行政長官（2017年7月1日就任）

面積　　　1106平方キロメートル

人口　　　734万人

民族　　　中国系92% 　その他8%

言語　　　広東語88.9%、北京語1.9%、その他方言　3.1%、英語4.3%、

その他1.9%[[2]](#footnote-2)

宗教　　　仏教、道教、プロテスタント、カトリック、イスラム教、

ヒンドゥー教、シーク教、ユダヤ教

主要産業　金融業、不動産業、観光業、貿易業

通貨　　　香港ドル

外国籍の内訳　(2016年)[[3]](#footnote-3) (香港政府の資料を元に筆者が作成)

|  |  |
| --- | --- |
| **国籍** | **人口** |
| **インドネシア人** | **153,299** |
| **フィリピン人** | **184,081** |
| **白人** | **58,209** |
| **インド人** | **36,462** |
| **パキスタン人** | **18,094** |
| **ネパール人** | **25,472** |
| **日本人** | **9,976** |
| **タイ人** | **10,215** |
| **その他アジア人** | **19,589** |
| **その他** | **68,986** |
| **合計** | **584,383** |

1. **序論**

**1-1.研究背景**

1997年7月1日、150年以上にわたる英国の植民地支配を終え、香港は中国に返還された。以来香港は一国二制度の下、中華人民共和国香港特別行政区として50年間の「高度の自治」が約束され、中国本土とは大きく異なる社会システムを有してきた。その一方で、どうしても香港が持つことのできないものが存在する。それは独自の国歌である。香港基本法付録Ⅲの1条には中華人民共和国の国歌は義勇軍侵攻曲であると定められており、「国」ではない香港は独自の国歌を有していない。

国歌は国の象徴の一つであり、ナショナリズムを高揚させるため、時に社会問題へと発展することもある。AFP通信（2019）は2019年1月9日、香港サポーターによる競技場内での中国国歌へのブーイングなどを問題視した香港政府は、中国国歌『義勇軍行進曲』を侮辱したものに最高三年の禁錮刑を科すことを盛り組んだ法案を公表し、市民に対する圧力を強めたと報じた。2019年8月17日、C G T N（China Global Television Network）は　『China's national anthem: A melody of unifying power that resonates through HK as violence divides』[[4]](#footnote-4)というタイトルでYouTubeチャンネルに国歌のプロモーションビデオを投稿した。この動画の冒頭は香港島の香港回帰祖国紀念碑の前で撮影されており、ジャッキーチェンをはじめ、幼稚園児からお年寄りまで国籍を問わず皆で中国国歌を斉唱するものとなっている。その後2020年6月4日には香港立法会で中国国歌を侮辱する行為を禁じる国歌条例が多数の親中派によって成立し同月12日に施行された。

2019年4月3日には台湾で起こった香港人男性による殺害事件を受けた香港政府が逃亡犯条例の改正案を発表し、以降、一国二制度の崩壊を危惧する香港市民によって条例の改正を求める大規模なデモが開催されるようになった。そこで市民の団結を高めるべく誕生したのが、『Glory to Hong Kong』（願榮光歸香港）と名付けられたデモ歌である。この歌の歌詞は香港の電子掲示板LIHKG（以降:連登）上で素性を明らかにしていないミュージシャンThomasが市民のアドバイスを元に完成したものであり、国歌に変わる存在として広く歌われてきた。本論文では香港におけるアイデンティティーがこれまでにどのように分析してきたのかを分析するとともに、大きな反響を呼ぶデモ歌『Glory to Hong Kong』がどのような議論を経て誕生し、どのような市民の声を反映したのかを研究する。

**1-2.曲の概要**

『Glory to Hong Kong』は20代の香港出身のミュージシャンであるThomas dgx yhl が香港の電子掲示板連登上で市民と共に作詞した曲である。South China Morning Post（2019.9.25）のインタビュー[[5]](#footnote-5) によると、Thomasは曲を通して抗議者のモラルを高め、団結させるべく海外の軍歌やコーラスからヒントを得て、6月初旬に『Glory to Hong Kong』の作曲をはじめた。彼のチームには取材当時およそ30人のメンバーが所属しており、作曲家のThomas以外に2人の作詞家、5、6人の編曲家、10人を越える音響技師が所属していた。Thomasは2ヶ月間に渡って作曲活動を行い、１週間で歌詞と基本的な編曲を完成させた。しかし、歌詞は改良の余地があると判断したため、8月26日に連登上にデモトラックと歌詞をアップロードし、市民にアドバイスを求めた。5日間に渡る議論を経て2019年8月30日、Thomas自身のYouTubeチャンネルに完成した曲を発表した。翌日には『《願榮光歸香港》原版 《Glory to Hong Kong》First version (with ENG subs)』[[6]](#footnote-6)とタイトルのついたミュージックビデオを投稿し、再生回数は瞬く間に150万回を超えた。2019年9月23日には韓国語版が発表され、25日には英語版に加えて、広東語、台湾語、普通話、日本語、韓国語、フランス語の６カ国語で歌われる多国合唱版も投稿された。以降抗議活動の場において広く歌われる曲となった。

South China Morning Post (2019.9.12)によると『Glory to Hong Kong』に加え、香港ではこれまでに6つの曲『Sing Hallelujah to the Lord』、『Do you hear the people sing』、『Below the Lion Rock』、『Boundless Oceans』, 『Vast Skies』、『Raise the Umbrellas』、『Add Oil』がデモの際に歌われているとされている。4曲が広東語の曲であるのに対し、２曲は英語の曲である。『Do you hear people sing』 はレ・ミゼラブルの劇中歌であり、香港では抗議の歌として雨傘運動時にも広く歌われていた。

賛美歌である『Sing Hallelujah to the Lord』が歌われる1つの背景としてキリスト教が香港社会に対し大きな影響力を持っていることが考えられる。香港大学法学部の戴耀廷副教授、香港中文大学の陳健民教授、基督教会の朱耀明牧師の三名のキリスト教徒が雨傘運動の発端となった「オキュパイ・セントラル」を指導したことからも香港社会とキリスト教は強い繋がりがあることがわかる。（松谷2016 p.285.）香港市民の内、プロテスタントが約48万人（教会堂数約1400）、カトリックが約37.4万人（教会堂数約70）と人口の10パーセントがキリスト教徒であるとされている。なお、教育、医療、福祉などの領域でもキリスト教による影響を強く受けており、公立の小中学校の約4割、社会福祉機関の3割がキリスト教系である。（松谷2016 p281.）そのため、デモの現場でも平安を求めキリスト教徒を中心に賛美歌が歌われてきた。今回の『Glory to Hong Kong』はこれまでに抗議活動の場で歌われてきた広東popと洋楽のハイブリッド版であることがわかる。

数々のデモの現場で歌われてきた『Glory to Hong Kong』であるが、2020年6月30日の香港国歌安全法の施行を受け、香港政府は「強烈な政治的メッセージが含まれ、暴力や違法な事件とも密接に関連している」として、学校内で歌うことを禁止した。今後さらに規制が強くなることが想定されることに、Thomasは「現在、暗闇の中にいて何も見えないとしても、どこかに光があると固く信じている」と語った。また、抗議デモを題材とした歌の作曲を見送る考えも示した。（朝日新聞 2020年7月27日）

**1-3.研究対象**

本研究では香港の電子掲示板である連登で曲が完成するまでに行われた8月26日から30日までの2301件の議論を研究対象とする。作者のYouTubeチャンネル上にもデモトラックはアップロードされたが、曲が完成するまでのコメント数が10件にも満たなかったため連登上の議論だけに焦点を当てることにする。

**1-4.研究方法**

2301件のテキストデータを元に、連登上でどのような議論が繰り広げられ、どのような民意が完成した曲に反映されたのかを質的に分析する。また、AIテキストマイングソフト[[7]](#footnote-7)であるユーザーローカルを用い、AIによるワードクラウド分析も行う。当初はKH Coderのようなテキストマイニングソフトを活用した計量テキスト分析も検討したが、連登ではショートメッセージや広東語特有のスラングが多く、ソフトウェアでは判断できない細かなニュアンスの違いを分析する必要があった。従って視認による質的な分析及びAIテキストマイニングを採用した。

**1-5. 先行研究の検討**

**1-5-1. アイデンティティーに関する先行研究**

香港のアイデンティティーに関する研究は古くから行われてきた。林(2005,p.216)は香港人形成過程を五段階に分けた上で1967年からの1969年までに香港人アイデンティティ が潜在的に萌芽したと分析した。この時期には香港経済が高度成長を迎え、香港は国際金融、情報センターとしての地位を確立した。また、1967年の香港無線テレビの開局によるテレビ文化の急速な発展により土着メディアが確立し、カンフー映画や広東語ポップスをはじめとした「香港文化」が誕生したとした。さらに、この時代には香港生まれの人口が全体の過半数を超え、香港を中国からの「難民収容所」「仮住まい」とする概念は「香港是我家（香港は我が家）」という概念に変化したという。そして、林(2005,p.218)は香港人アイデンティティの研究を通し、「香港アイデンティティは、原始的アプローチが主張するような悠久の歴史の中で形成された生まれつきのものではなく、むしろ工業化という近代性と可変性を強調する手段的アプローチが適合している」と表現した。

谷垣（1998, pp.74,100-101）は「香港人アイデンティティは香港の中国系住民の中国人アイデンティティが政治的中国人アイデンティティと文化的中国人アイデンティティに分裂していることの現れでもある」とした。また、1997年4月の電話調査を通して、香港アイデンティティの形成において他者認識が重要であるとし、「香港社会が自律性を獲得した事実と住民自身が他者との比較において香港を自身の帰属先として認めていくという過程が存在して、はじめて香港アイデンティティーは形成される」と示した。

Gordon（2013, pp.148-167.）は英国植民統治時代と中国返還後の香港社会について学生を対象としたインタビュー調査など人類学的に分析し、香港市民のアイデンティティーとは何か研究した。その中で、英国による植民地支配の歴史が香港市民の心まで西洋化させ、中国という“国”に所属するという考え方を妨げる大きな原因となったと分析した。そして香港市民は市場に基づいたナショナルアイデンティティー（Hong Kong’s market-based national identity）を有していると結論付けた。倉田徹と張（2015, p.155）は　「香港アイデンティティーは『自分は何者か』という問いかけよりかは『自分は他人と違う』という差異性の表明で語られる」と示した。そして香港人イメージの確立のために、まずは中国本土との距離を保ち、他者と自己の間に不可解な線を引いたとした。この不可解な線を香港のポップカルチャーの出現があぶり出したとまとめた。村井（2016,pp.83-85）は香港大学民意研究計画のホームページのデータを分析し、オリンピックなどを通し香港市民の帰属意識の趨勢は二転三転していることを示した。そして還後の香港のアイデンティティーは中国大陸との経済的関係、及び自由、民主といった欧米的価値観の二つの観点を通し表すことができると分析している。また、2016年の段階で若者の間で香港人アイデンティティーは香港ナショナリズムとも呼ぶべき感情に発展していると示した。

**1-5-2. 歌と抗議運動に関する先行研究**

歌に関してはRÜHLIG（2016,pp.59-68）は雨傘運動の中で歌われた四つの歌『Do you hear the People Sing』、『Under the vast Sky』、 『Lift your Umbrella』、 『Gau wu Everyday』 に関してインタビュー調査を行った。そして、これらの歌が抗議の中で歌われたことは伝統の変遷を意味し、歌がローカリズムの高揚に結びついたとした。また香港の公用語である広東語と国際的な音楽が組み合わされる中に香港の国際都市香港のアイデンティティーがあるとし、非暴力的な歌詞が非暴力的な抗議活動と関係していたことを示した。

抗議活動について倉田徹（2017,pp.74-75,83）は自由や法治という香港の「核心的価値」及び多元性を香港社会は重視していると分析した。そして「世界標準の追求と中港矛盾への不満が民主化運動の原動力であった」と指摘した。なお雨傘運動終結後の運動参加者による新たな政治の動きについて、世界標準のリベラルな思想（自決派）と大陸を排斥する香港のローカルなナショナリスト（本土派）を二つの軸として対立が起こり、旧来の民主派とも距離を保つ存在になったと分析した。

逃亡犯条例をめぐる抗議活動について倉田明子（2019,pp.168-191）は通信アプリであるテレグラムに注目し、リーダー不在の運動のメカニズムの解析を行った。雨傘運動以降、政府に不満を持つ若者たちの間に一定の暴力行為を容認する「武勇派」と平和的な抗議に徹する「和理非（平和、理性、非暴力）派）」で分断が生じていた。しかし、今回の運動では互いを尊重しながら同じ目標を目指そうとする意識が共有されていることにより、特定のリーダーがいなくても収束する気配を見せていないとした。その一つの要因として、SNSやネット掲示板が大きな役割を果たしているという。中でもテレグラムと連登はデモや集会の計画を練るためのプラットフォームになるだけでなく、進行中の運動の現場での情報交換ツールとしても活躍した。テレグラムはメッセージ内容を独自のプロトコルで暗号化することで機密性を高めており、政府機関でも解読するのが困難なため、世界中の民主化運動の場で利用されている。倉田明子（2019,pp.186-188）はテレグラム上の議論を観察する中で、匿名のユーザーたちが激しい議論を通しデモを計画した過程を分析した。そして、テレグラムには「小台」と呼ばれるデモや集会の取りまとめ役の武勇派の諸組織が多数存在しており、誰もが小台になれるため、警察であっても全てを一網打尽にすることはできないと示した。そしてこの「小台」のメカニズムこそデモの継続につながっているとした。また、テレグラム上では目先の運動だけでなく、香港における未来の民主主義のあり方を日夜議論するグループも誕生していることも示した。一方で、連登に関する分析は少なく、『Glory to Hong Kong』については、完成までの経緯とどのように歌われているかについて言及はあったものの、どのような議論を経て曲が完成したかまでは詳しい言及がされていない。新聞やニュース等でも「ネット上の議論を経て曲が完成した」と報じられているが、どのようなプロセスを経て曲が誕生したかまで示した研究は存在しておらず研究する意義があると考える。

**第二章　 2301件の全体構造を掴むための検討内容の分析**

**2-1.LIHKG（連登）について**

LIHKG(以下:連登)は2016年に正式に運用が開始した香港を代表するネット掲示板であり、当初は2001年から運用されているネット掲示板高登討論区(HK Golden）のミラーサイトとして作られた。（倉田明子2019,p.174）Rest of the World(2020)によると連登の創設者はLineage Huiであり、自らの名前であるLIに前身となった掲示板（HK Golden）のHKGを組み合わせLIHKGとした。South China Moring Post(2019.8.16)によると、米調査会社のSensor Towerは2018年の7月のアプリのダウンロード数は12000であったが、2019年の7月には120000のダウンロードがあったとし、抗議活動の中で市民からの注目度が上がったことがわかる。Rest of the World(2020)によると連登は極めて匿名性が高いため、正確なユーザー数を特定することはできないが、香港大学教授の傅景華は2020年4月時点で登録者数はおよそ30万人だとした上でアクティブユーザー数は数万人程度だと推測している。また、連登は「アイデアジェネレーター」の役割を果たしており、特にアクティブなユーザーは「アジェンダセッター」だとしている。傅は連登で議論されたことを拡散するためにテレグラムをはじめ様々なSNSが利用される動きについて、香港のあらゆる世代と社会階級を横断することを意味すると分析している。

連登は国境を越えて誰でも閲覧できるが投稿、投票、コメントができるのは登録をしたユーザーに限られており、香港のプロバイダーや香港の大学や専門学校が提供するメールアドレスを持っていないとユーザー登録ができない仕組みになっている。（倉田明子2019,p.175）また、新規ユーザーを区別するため、新規ユーザーの名前の横には「P牌」と呼ばれる赤文字のPと書かれた記号が表示される仕組みになっている。これは香港における自動車の初心者マークであるProbationary Driving Licenseを意味しており、議論の安全性を高めるための表示となっている。ユーザーは連登仔と呼ばれ、今回誕生したデモ歌『Glory to Hong Kong』の作曲者もThomas及び眾連登仔と示されている。議論は基本的に広東語かつ繁体字で行われており、風刺ポスターや絵文字、連登のキャラクタースタンプも多く使用されている。広東語特有の漢字表記のない音にはアルファベットや当て字が多く使用されている。（例、Brother巴打, Sister絲打）

P牌の資料 (筆者が連登の掲示板をスクリーンショットした)



**2-2.曲が誕生するまでの経緯**

2019年8月26日にThomasによって開始された投稿は8月29日までに2301件の議論が連登上で行われ翌日の30日にYouTube上で曲の最終完成版が披露された。連登は電子掲示板であるため様々なユーザーが集まっており、スレッドの最大の目的である歌詞に関する議論から一連のデモに関する議論まで広く確認することができた。本章ではスレッドでどのような議論が行われていたのかを明らかにしたい。

作者がこのスレッドを作成した経緯は三つ存在した。一つ目は曲の紹介及び歌詞の解説であった。投稿のはじめには曲が録音されたYouTube及び音声ファイル共有サービスのSoundcloudのリンクを貼り、当時未完成であった歌詞を紹介した。「榮光（栄光）」は香港において日常的に使用される単語ではないため、まずは「榮光」という言葉にどのような意味があるか辞書の引用を用いて説明した。そして、A1、A2、B、A3パートそれぞれの歌詞が何を示しているか解説をした。それぞれのパートには香港が置かれた現状を示唆するメッセージが込められており、歌詞の意味を正確に連登ユーザーに発信したかったのはないかと考えられる。（資料1）

二つ目は新たな歌詞の募集である。作者は編曲メンバーがA1パートの「盼自由 歸於 這裡(自由がここにあることを願っている)」、A3パートの「霧已除（霧が晴れた）」という表現に特に満足できておらず、新たな歌詞の提案を歓迎することを発表した。作者Thomasは素性を明かすことなく活動しているため、曲が完成するまではその名は世間に知れ渡っていなかった。YouTube、Soundtrackに加えて若い世代の多い連登で曲の発信、歌詞の募集を行ったことは曲をより多くの香港市民に知ってもらうにあたり効果的であったと言える。また、連登上にGoogle Formsのリンクも貼り、Google Formsでも同時進行で歌詞の募集を行ったため、連登を使わない市民の声も拾うことができたと考えられる。Google Forms内では最終決定権は作者のThomasにあるとした上で、メッセージとテレグラムID（任意）の二つの記入欄を設けた。（資料2）結果的には問題視していたA1パートの歌詞は変更されることはなったが、A3パートの歌詞は「霧已除」から「這香港」に変更された。

三つ目は録音の協力を募るためであった。録音の際、雑音が入らないようマイクとの距離感を意識するようにアドバイスがされた。曲の制作にあたり技術支援を募るのに加え、市民で一丸となって曲を作るという意識を持たせることにも成功した。この段階では音程や演奏方法に関するアドバイスは求めていなかったが、結果的に多くの議論が行われることとなった。

（資料１）

A1 土地上既人流淚 情怒 為公義 拒絕再沉默

（人々は涙を流し、怒り、公義のために再び沈黙することを拒絶する）

A2 熟悉既恐懼 但大家選擇再不退縮 為左自由光輝既家

（よく知られている恐ろしさがありながらも皆は自由で輝く家のために決して退かない）

B 縱使黑暗既時刻會降臨 但香港人有既係勇氣同智慧 會撐得過

（暗闇が迫っていても、香港人素それを乗り越える勇気と知恵を持っている）

A3 光復香港 時代革命 民主自由永不朽

（香港を取り戻せ、時代の革命だ、民主、自由は朽ちることがない）

（資料２）筆者がスクリーンショットを撮ったものである



**2-3.ユーザー情報**

スレッド上で議論に参加したユーザー名は全体で426件確認することができた。連登は匿名の電子掲示板であるため、数字、アルファベット、平仮名、漢字及びこれらの組み合わせがユーザー名として使用されている。中には徳川慶喜、本田翼、Toshimitsu、Musashi Miyamoto、腹ぐろ眼鏡（意味は不明）といった日本に関連したユーザー名も確認することができた。また、曲名にも使用されている「栄光」の文字について、日本の人気アーティストゆずの『栄光の架け橋』と似ているというコメントも存在した。これは日本や日本のサブカルチャーに親しみを持つ人が多い香港ならではの現象であると感じた。匿名であり基本的なユーザー情報が一切公開されていないため、属性を探ることはできなかったが、ユーザー名に勇武がつくIDを2件（勇武派四千蚊未啊、勇武過人）、和理非がつくIDを1件（和理非判官）確認することができた。

掲示板であるため、アクティブユーザーの存在も一定数確認することができた。中でも「失腳仔」「徒手摸蛋(已燒焦)」の二つのユーザーはそれぞれ、666件、430件の投稿をしており、議論全体の約47パーセントの投稿をしていることがわかった。しかし、彼らの投稿内容を見てみるとほとんどが「推」や「push」といった一文字の投稿であり、議論の盛り上げ役であることが判明した。ユーザーによって投稿数の差はあるものの、議論には426のユーザーが参加しているため、様々な市民の民意が歌詞に反映されたと分析することができた。

**2-4.議論の主な構成**

議論の内容分析（投稿内容を元に作者が作成）



これらのカテゴリー分けには重複があるため2301件を超える結果となっているが、議論全体はこのように分析することができた。テキストを分析する中で最も多かったコメントは「推」「push」といった一単語の投稿であった。「推」は日本語では「いいね、賛成」に近い広東語である。この言葉が多く用いられる背景として熱門の存在が大きく関係していると推測できる。連登では反応が多く、たくさんの議論が行われたスレッドは熱門と呼ばれるトレンドリストに入り、より多くの連登ユーザーの目に触れることとなる。熱門にランクインするには活発な議論が行われる必要があり、ユーザーが協力してこのスレッドを熱門に乗せようとする動きが見える投稿も35件確認することができた。その中では、新たなスレッドを立ち上げて、そのリンクをスレッド内に共有し、多くの反応をするように呼びかける動きが見られた。連登内における知名度を高めるためにまずは熱門へのランクインを目指し「推」や「push」といった一単語の投稿が最も多くされたと分析する。電子掲示板であるため、絵文字やポスター、連登のキャラクターのスタンプの投稿も353件確認することができた。

作者であるThomasは連登ユーザーとの交流を深めるべく、絵文字投稿も合計して242回の投稿を行った。曲の完成を待ちわびていたユーザーからはThomasの体調を労る声や感謝を伝える投稿が多くを占める中、「スタンプを押す暇があればとっとと仕事をしろ」といった心無い主張も確認することができた。すべての議論を通して建設的な投稿がほとんどの中で、ただ批判的な投稿を10件確認することができたが、どの投稿もユーザー名が「高級五毛」であったため、荒らしであると判断した。一方、議論を通して、歌を支持する投稿や歌への希望、作者を応援するコメントが147件あった。また歌詞以外の提案も31件確認することができた。その一つに歌い方の提案が挙げられる。通常デモの現場では勇武派はデモ隊の最前線に立ち、和理非派は後ろに立つことが多い。そのため、作者は和理非派の新たなミッションとして楽隊と混声合唱団を務めるようにと提案した。これは勇武派と和理非派が助け合ってデモに参加していることを表した動きである分析した。また、「勇武派全員で合唱し、歌えないものがいたら「鬼」（スパイ）だ」といった投稿もあった。その他には、デモの場をはじめ重光記念日や国慶節に歌おうという呼びかけや録音時のアーティストを提案する声があった。

電子掲示板であるため、デモの情報や、デモに関する情報提供を行うリンクのシェアも24件確認できた。中には721といった数字だけのコメントも3件存在した。銭（2020,151-152）のデモやインターネット上で使われる言葉をまとめた2019年の小辞典によると、7月21日は白いTシャツを着た集団が元朗駅（ユンロン）構内と列内で市民を無差別に攻撃した日であり、45名が負傷し、１名が重体となった。連登ではこのように事件が起こった日にちを数字で示すことで事件を風化させないようにする動きも見られた。歌詞が変更された経緯は第三章で、歌詞の提案、技術的アドバイス、国歌に関する主張、他の歌との比較に関する投稿は第四章で分析を行う。

**2-5. AIテキストマイニングによる分析**

株式会社ユーザーローカルが提供するAIテキストマイニングサービス[[8]](#footnote-8)を用いてテキスト分析を行った。ユーザー名を除いたスレッド内に投稿されたテキストデータのみを分析対象とした。スコアの算出方法として一般的な文書で使われることが少ないが調査対象のテキスデータに頻繁に登場するものはスコアが高くなる処理がされている。[[9]](#footnote-9)その結果下記のワードクラウドが誕生し、「響透」がワードクラウド上で最も大きな単語となった。響透は日本語と同様「響き渡る」を意味しており、歌詞ではA2パートの「何解 血在流 但邁進聲 響透 建自由 光輝 香港」で使用されている。スコアで見ると國歌（738.39）、聲（664.39）、響透（605.71）と三番目に高いスコアであったが、このような結果になった理由として、議論の中で歌詞の提案が行われた際に「響透」の箇所が変化せずに使用されたことが考えられる。デモを通して世界中に香港の現状を発信し、香港の自由、民主を求める市民にとって「響透」は何よりも重要なテーマであり、近年の香港の抗議活動を象徴するキーワードであるように見受けられた。



**第三章　８箇所の歌詞の変更過程分析**

**3-1.歌詞の草案と完成版の比較**

|  |  |
| --- | --- |
| 草案[[10]](#footnote-10) | 完成版[[11]](#footnote-11) |
| A1何以 這土地 淚再流何以 令眾人 亦憤恨昂首 拒默沉 吶喊聲 響透盼自由 歸於 這裡A2何以 這恐懼 抹不走何以 讓勇士 從沒退後何解 血在流 但邁進聲 響透建自由 光輝 香江B在晚星 墜落 徬徨午夜迷霧裡 最遠處吹來 號角聲"悍自由 來齊集這裡 來沉著應對勇氣 智慧 也永不滅"A3黎明來到 這一日 霧已除同行兒女 讓正義 獲救贖祈求 民主與自由 萬世的不朽我願榮光歸香港 | A1何以　這土地　淚再流何以　令眾人　亦憤恨昂首　拒默沉　吶喊聲　響透盼自由　歸於　這裡A2何以　這恐懼　抹不走何以　為信念　從沒退後何解　血在流　但邁進聲　響透建自由　光輝　香港B在晚星　墜落　徬徨午夜迷霧裡　最遠處吹來　號角聲"捍自由　來齊集這裡　來全力抗對 勇氣　智慧　也永不滅"A3黎明來到　要光復　這香港同行兒女　為正義　時代革命祈求　民主與自由　萬世都不朽我願榮光歸香港 |

左が作曲者Thomasが8月26日に投稿した草案であり、右が議論を経て完成した最終完成版である。全体での変更箇所が8箇所であることからも、連登の議論によって大きな歌詞の変更は行われなかったことがわかる。変更内容としては1文字（讓、悍、的）を変えて歌詞のニュアンスを変更したものと、完全に新しい歌詞を追加したものの二つに分けることができる。抗議活動の士気を高めることを目的とした歌であるため、前半では香港市民が強い信念と正義感を持ち、抗議する様子を表している。一方、エンディングパートでは「民主と自由が朽ちないように祈る」とあり、民主と自由の大切さを主張している。実際、議論の中でA3パートの「民主與自由（民主と自由）」の代替の歌詞が提案されることはなかった。また、各パートにそれぞれ「自由よ、ここにあれ」「自由で輝く香港のために」「自由のためにここへ集え、全力で戦え」「どうか民主、自由が永遠であれ」と自由の文字が登場することからも、作者及び市民が最も大切にしている考えは、香港における自由と民主であることが見て取れる。

**3-2.それぞれの変更点の過程分析**

今回、歌詞の募集は連登に加えてGoogle Formsも用いて行われていたため、連登のどの投稿が直接的なきっかけとなって歌詞の変更がされたかを正確に示すことはできない。しかし、連登上の議論において歌詞の変更につながったとされる投稿を確認することができたので、それらをまとめて推測したい。

**3-2-1.讓勇士　從沒退後→為信念　從沒退後**

(勇者は決して後退しない→信念のために後退しない)

#793に「唯信念堅決」（ただ固い信念を持ち）という歌詞が登場して以降、提案内容には信念と勇士の二つが登場していたが#2165の投稿をもって「信念」が歌詞に採用されることになった。

#793　唯信念堅決 從沒退後 （一部抜粋）が新たに提案される

= ただ固い信念を持って後退しない

#2115　令勇士 從沒退後　　 (一部抜粋)

ここまでは一部のユーザーが提案する歌詞に勇士も使用されていた

= 勇者は決して後退しない

#2165　為信念 從沒退後信念（一部抜粋）が歌詞に採用

= 信念のために後退しない

**3-2-2.香江→香港**

(香江（香港の雅称）→香港)

香江とは香港の雅称である。＃250で「香港」と「香江」の音が違うのではないか指摘があり、その後も「香江」という表現に対する批判的なコメントが4件確認された。これらの議論を経て作者によって「香江」が正式に「香港」に変更された。発音が異なり歌に合わないというのが大きな理由ではあったが、間接的な表現よりも明確な表現が好まれた今回の議論では、香港というわかりやすい表現が適していたと考えることもできる。

# 250 香港 同香江 好似唔岩音？

= 香港と香江は音が違うのではないか？

#1524 A2 香江 同a3 香港 好似怪怪地？
= A2の香江とA3の香港は違和感がある

#1752 自由 香江 唔係好順

= 自由と香港は一緒に使うと読みにくい（スムーズではない）

#2047香港兩隻字係有少少歪音但我自己又接受到
 但好似都有人覺得好怪 （一部抜粋）

=香港の2文字は少し音のズレがあるが、私は受け入れる。

ただし違和感を覚える人もいる。

#2076 我覺得樓主個版本好好 除左香江唔岩音
=香江の箇所以外は当初のままで良いと思う

#2088 最底個香港ok 中間個香江唔ok

=最後の香港は良いですが、中間の香江は良くない

#2089 咁唱埋香港　(採用)

= 香港にも置き換えられる

**3-2-3.悍自由→ 捍自由**

(誤字→自由を守る)

#1を除き11回“悍”を使用した提案があり、“捍”の提案は合計で2回しかなかった。連登内での完成版は「悍自由」のままであったが、最終完成版は「捍自由」 （自由を守る）となった。「悍」は日本語と同様に悍しい、恐ろしいという意味を持つ文字であり、明らかな誤字であることがわかる。立心偏と手偏が似ているため、作者が誤って「悍」の字で歌詞を投稿したことから他のユーザーも「悍」を用いて議論が行われたのではないかと推測した。

#1235 捍自由　來齊集這裏(一部抜粋) 捍自由が提案される

= 自由を守ってここに集まり

#2039係咪捍自由　(悍自由を用いた#1728の投稿に対して誤字を指摘)

= 自由を守るが正しい

#2268 悍自由 來齊集這裡 來全力抗對（一部抜粋）

連登上では誤りである「悍自由」が採用されていたが、YouTubeの最終完成版は「捍自由」になった

**3-2-4. 來沉著應對→來全力抗對**

(冷静に（困難や敵と）立ち向かう→全力で抵抗しよう)

代替歌詞の提案はあったが、どれも作者が提案した「來沉著應對」と近い意味のものであった。最終完成版に直結した歌詞の提案は作者が投稿した#2268のみであったため、#793と#2265の意見を合わせて最終版である「來全力抗對」が完成したと考えることができる。

#793 　來全力對壘 (一部抜粋)　　が提案される

= 全力で対決しよう

#2165　來全力奮抗 (一部抜粋) が提案される

= 全力で闘争しよう

#2268 來全力抗對 (一部抜粋)　 が作者によって採用された

= 全力で戦おう

**3-2-5. 這一日　霧已除→要光復　這香港**

(この日霧が晴れた→この香港を取り戻せ)

当初の歌詞に「光復香港」の文字はなかったが、#1の作者の歌詞の解説の欄にA3の歌詞は光復香港 時代革命 民主自由永不朽」（香港を取り戻せ、時代の革命だ。民主と自由は決して朽ちない）を表現したものだと記載があった。その後「光復香港」を主張する投稿があり、#589、#1780では「光復香港 時代革命」を歌詞に入れるよう提案する投稿があった。作者は前向きに捉えたものの、#1988では代替の歌詞として「黎明來到 曙光下 是我們」（夜が明け曙光の下にいるのは我々だ）が閃いたことを投稿した。#2168で「曙光下 是我們」が「要光復 我香江」（私の香江を取り戻せ）に変更された歌詞が提案され、この投稿が決め手となって「要光復 這香港」（香港を取り戻せ）の歌詞が完成した。

#1光復香港 時代革命 民主自由永不朽（一部抜粋）と作者が解説する

= 香港を取り戻せ、時代の革命だ、民主、自由は朽ちることがない

#338 光復香港

= 香港を取り戻せ

#589 入到光復香港 時代革命就perfect池

= 「光復香港、時代革命」が入るとなお完璧だ

#609 係bor 未諗過 試下先

= 確かに、考えたこともなかった、試してみる。

#665 感動 光復香港 時代革命

= 感動した　香港を取り戻せ、時代の革命だ

#1779 為世代成就革命（一部抜粋）　希望呼應光復香港，時代革命(一部抜粋)

= 歌詞の中に革命の文字が入り、光復香港、時代革命が呼応されることを願うと投稿があった

#1780 好希望樓主會採納光復香港，時代革命

= 作者が「光復香港、時代革命」を歌詞に採用することを希望する

#1988 黎明來到 曙光下 是 我們 終於諗到 (作者により新たな歌詞の提案)

= やっと思いついた　「夜明けが来て曙光の下にいるのは私たちだ」

#2054 A3 最後一句 Re~vo~ul~tion of our times! 光復香港 時代革命

= 最後の一句　Revolution of our times! 香港を取り戻せ、時代の革命だ

#2168 黎明來到 要光復 我香江 (一部抜粋)

=夜が明けた、私の香港を取り戻せ

#2187 A3 黎明來到 要光復 這香港 (曙光下 是我們) (一部抜粋)

=夜が明けた、香港を取り戻せ（曙光の下にいるのは我々だ）

#2190黎明來到 要光復 這香港　正式に採用

世が開けた、香港を取り戻せ

**3-2-6. 讓正義 獲救贖→為正義　時代革命**

(正義が救われるように→正義のため時代の革命だ)

5と同様、草案の歌詞に「光復香港 時代革命」の文字はなかった。当初は＃21で作者が議題にも挙げたように獲救贖（救われるように）から獲勝利（勝利を納められるように）へ変更しようとする動きが見られた。その理由は#562が説明するように救われるという表現が受動的であり、勝利を勝ち取るというのは能動的であるためだった。＃589で「光復香港 時代革命」の8文字を歌詞に入れるよう提案した投稿に対し作者は前向きな姿勢を見せていたが、歌詞を変えようとする動きは確認できなかった。その後正義の前の言葉を「令（させる）、讓（させる）、為（のために）」の三つのどれにするかで様々な提案がされたが#2168の「為正義 時代革命」の投稿に作者が納得し、#2187で「為正義 時代革命」が正式に歌詞に採用された。しかし、連登における最後の議論では「獲勝利 (時代革命)」と表記されており、最後は作者及びチームのメンバーで歌詞を決定したと推測することができる。

注）ここまでは光復香港が歌詞に入った経緯と同じである

＃562 勝利好啲 救贖被動啲 香港人為正義而戰咁勝利好啲

= 勝利の方がよい 救われるは受動的だ。 香港人は正義のために戦うので勝利という文字を入れた方が良い

#1601 屌 頭先唔記得改返救贖>勝利 用住舊版歌詞錄住教學VER先 final ver詞仲諗緊

= ごめん。さっき救贖から勝利に修正するのを忘れた。だから先に旧版の歌詞を用いて教学版を作る。未だに最終版の歌詞は考えている。

#2014 同行兒女 令正義 獲勝利（一部抜粋）

= みな正義を行い、勝利を掴め

#2151 同行兒女 讓正義 獲勝利 （一部抜粋）

= みな正義を行い、勝利を掴め

#2168同行兒女 為正義 時代革命 (一部抜粋)

= みな正義のために時代の革命だ

#2170 嘩屌 點解完全冇諗過果個位可以fit時代革命
= 時代革命の文字を入れるのは全く考えたことがなかった。とても良い

#2187 同行兒女 為正義 時代革命 (獲勝利)（一部抜粋）

= みな正義のために時代の革命だ（勝利を掴め）

#2190 同行兒女 為正義 時代革命(一部抜粋) 正式に採用

= みな正義のために時代の革命だ

#2268 最終完成版の歌詞では獲勝利 (時代革命)と表記

= みな正義のために勝利を掴め（時代の革命だ）

**3-2-7. 萬世的不朽→ 萬世都不朽**

(永遠である→共に永遠である)

この変更に関しては#2051の提案が大きく影響したことがわかる。#2151で採用されてからは他の投稿も基本的には“都”を用いて議論が行われている。その他にも「不朽」（朽ちない）の表現に関する議論が行われたが、最終的に変化することはなかった。

#2051祈求 民主 與自由 萬世都 擁有　(一部抜粋)

=民主と自由共に永遠にあれ

#2151 萬世都不朽(擁有) (璀燦)

=　永遠に朽ちない　又は　ある　又は　輝く

#2155 不朽 Plz

= 朽ちないでお願い

#2156不朽最神聖但最唔順口 擁有就好正路又順口但最唔神聖 璀燦就普通順口又少少神聖

= 不朽(朽ちない)は最も神聖だが読みにくく、擁有(ある)は至って普通で読みやすいが一番神聖でない、璀燦(輝く)は普通で少し神聖だ。

#2160不朽幾順口喎

= 朽ちないは読みやすい

#2268 祈求 民主 與自由 萬世都 不朽 正式に完成

= どうか民主自由ともに朽ちるな（永遠であれ）

**3-3.歌詞の表現について**

**3-3-1.同行**

同行は現香港特別行政区長官である林鄭月娥(キャリー・ラム)が2017年の行政長官選挙に立候補した際に掲げたスローガンから来ている。彼女は選挙中「同行　We Connect」をスローガンとして掲げていたが、小栗（2019,p291-292）は逃亡犯条例をめぐるデモの中でもこのスローガンが利用されていると指摘する。デモの中では「和理非（和平、理性、非暴力）」を掲げる非暴力主義者と「勇武」と呼ばれる直接行動主義者が団結しており、立場を超えた連携を示すのに「We connect」や「兄弟爬山、各自努力（兄弟で山を登るなら、それぞれの方法で努力しよう）」というスローガンが使用されているとした。なお、「同行」は、『Glory to Hong Kong』のA３パートの一節に「同行兒女 為正義 時代革命（少年少女とともに、正義のために、時代の革命を）」として使われており、小栗は林鄭の掲げた香港人の連携は、皮肉にも彼女に対する反対運動の中に実現しつつあるようであると分析している。

**3-3-2.光復香港、時代革命**

歌詞に登場する「光復香港、時代革命」は、本土民主前線の梁天琦（エドワード・リョン）が2016年9月の立法会議員選挙に出馬した際に用いたものであり、近年のデモの中でも様々な場所で使われている。小栗(2019,p293)によると活動家である梁は今回のリーダーを有さないデモ活動の中でも精神的指導者となっており、2017年に誕生した彼のドキュメンタリー映画『地厚天高』では、彼が以下のように聴衆に呼びかけるシーンが記録されているという。梁はバットマンに出てきた「夜明け前の暗闇が一番暗いのだ」（原作: The night is darkest just before the dawn. And I promise you, the dawn is coming.）というセリフを紹介し、『今の香港も確かに暗いですが、夜明けは必ず来ます。光復香港、時代革命』と呼びかけた。このセリフは『Glory to Hong Kong』の後半パートの歌詞にも大きな影響を与えたことが見て取れる。一方で村井(2019,pp196-200)は、「香港人加油（香港人頑張れ）」や「光復香港、時代革命（香港をよりもどせ、時代の革命だ）」といったスローガンに加え、「願榮光歸香港（香港に栄光あれ）」は香港という一つの文化的政治的共同体が存続の危機に瀕しているという切迫した思いを表現しているとした。また、本土派のリーダーたちの置かれた現状を示した上で、スローガンの注目が本土派の勢力を盛り返したわけではないと指摘している。

**第四章　その他の議論**

**4-1.歌詞に香港らしさを追求する動き**

香港のアイデンティティを示すものの一つに広東語が挙げられる。『Glory to Hong Kong』は広東語の歌であるが、広東語は口語がメインの言語であるため、書き言葉ではなく話し言葉で歌詞を作るべきだという意見が2件あった。しかし作者は歌詞の内容を正式（formal）なものにしたかったため、当初と変わらない書き言葉を歌詞として採用した。吉川(2016,255-260)のまとめによると2011年の香港における広東語を常用言語とする話者数の割合は全人口の89.5%を占めており、普通話は1.4%、英語3.5%と比較して大多数であることがわかる。また、吉川は清朝以来、広東語は「文章朗読の言語」という重要な社会機能を担ってきたとする。しかし、返還後普通話教育が香港で進むなど普通話の話者が増える中で、広東語を保護しようと各種媒体における（書かれた）広東語のさらなる勢力伸長が見られると指摘した。

香港のアイコンに関しては#793の歌詞の提案に香港の区旗に使用されている紫荊（バウヒニア）が登場したことをきっかけに、議論の中で歌詞に香港のアイコンを入れようとする動きがあった。＃1554では義士、獅子山、東方之珠という香港特有の固有名詞を入れ、それらを歌詞の中で繰り返せば皆にとって歌いやすくなると提案がされた。実際に＃1881では香港のアイコン（ヴィクトリアハーバー、東洋の真珠、民主など）を歌詞に用いた「香港之歌」が議題に上がった。＃2171では獅子山に加え、国の歴史も追加するべきだという意見があった。しかし、紫荊以外のアイコンが歌詞に登場することはなかった。 #2168では香港の名曲である「獅子山下」の歌詞の一部を用いた歌が提案され、A1の最初のパートは作者によって戦闘版の最初のパートに採用されることとなった。作者は戦闘版に「明珠」という東洋の真珠を彷彿させる言葉を入れたものの通常盤の最終的な歌詞に香港のアイコンが追加されることはなかった。その理由として、#2196で作者がイギリス、アメリカ、フランスの国歌では国の象徴となるものの言及がなく、市民に重きが置かれていることを挙げている。そのため、香港らしさを歌詞に追求する動きは戦闘版を除き大きな影響を与えなかった。戦闘版は議論の終盤で作詞されたものの、曲としてレコードされることはなく、世に広がったのは通常版だけであった。

#793 在紫荊墜落 徬徨每夜

=バフヒニアが堕落し毎晩彷徨う

#934 紫荊唔係洋紫荊，要改

=紫荊ではなくて洋紫荊が正しいので変えろ

#1554 仲有小小建議，如果可以係歌詞加多d香港獨有既野 例如：義士/獅子山/東方之珠 呢一類既詞，再重覆多d，咁可以令到好多人唔洗睇詞聽幾次都識得唱　（一部省略）

小さな提案がある。もし歌詞に義士/獅子山/東方之珠のような香港のアイコンを加えたら何回か聞くだけで暗記できる人が多いと思う。

＃1881 香港之歌

= 香港の歌（曲名）

#2064 都話左洋紫荊同紫荊係兩種唔同花黎！

=バフヒニアと洋バフヒニアは違う種類だ

＃2171 #2168 歌詞の提案の説明として

1. 第一段借用咗好多「獅子山下」嘅字　係對香港黃金時代致敬

第一段落は香港王号時代のオマージュとして「獅子山下」から多くの言葉を借りている

1. 如果作為國歌應該多啲描述國家本質/發跡史

国歌ならもっと国の本質、発展史を描写すべきだ

1. 我刻意加咗好多今次革命嘅常用口號落去希望大家有個共鳴

今回の革命のスローガンをたくさん入れた。みんなの共感を得られると嬉しい

＃2196 有個重點係 我發現好聽晚英美法俄國歌都冇提佢地國家象徵性既物品 只有不停描述一班人 人民先係重點

あと一つ大切な点としてイギリス、アメリカ、フランス、ロシアの国歌は国の象徴には触れず、国民のことを描写し続けていることに気がついた

**4-2. 曲の技術的なアドバイス、お助けについて**

当初作者は歌詞の変更に関するアドバイスを貰うために、歌詞とサウンドトラックを投稿したが、歌詞だけではなくサウンドトラックに関する技術的なアドバイスも54件確認することができた。中でも男性にとってキーが高すぎるという議論が11件投稿されていたことから、市民は皆にとって歌いやすい曲にしたかったことが推測することができる。またこの議論から曲として聴くだけではなく、実際に歌うことも強く意識されていたことがわかる。「高揚感を高めるためにドラムの音が必要だ」「チェロの音が必要だ」と使用楽器のアドバイスも行われ、最終完成版のミュージックビデオでは楽隊によってドラムを始めとした様々な楽器が使用された。

議論の中では作者がユーザーに助けやアドバイスを求める投稿が複数存在した。その中で、#1667、#1740のように歌の経験者が録音を手伝うという声や、#1999のように指揮で曲の制作に協力できるという声も確認できた。また、録音した音声データのデモトラックを連登上にアップロードする投稿も確認できた。8月30日に作者は、#2015で「研究したらキーを変える必要があることがわかった。」と投稿しミュージックビデオ完成前にキーの変更が行われた。ユーザーによる強力な支援、参加者同士の信頼関係が曲作りにおいて大きな役割を果たしたことがわかった。

#1667 真心 可以幫手唱 利申：唱開歌有表演唔駛驚太伏

= 本当に手伝うよ。　私はパフォーマンスの経験があるんだ。

#1740可以幫手唱 利申：小一開始唱Choir女高音到而家外國讀博士。校際比賽都拎過獎。

=歌ってあげる。実際、私は小一からコーラスを初めてソプラノを歌い、今は海外で博士号の勉強をしている。大会で受賞したこともある。

#1999 求譜 可幫指揮

楽譜が欲しい。指揮ができる。

#2015 研究完好似真係要轉key

= 研究したらキーを変える必要があることがわかったよ。

**4-3. 独立や国歌に関するコメント**

作者にとっての作曲の目的は合唱を通して市民の団結を深めることであったが、議論の中ではこの曲を香港における新たな国歌と捉える動きを確認することができた。2301件の議論の中で国歌（61件）、軍歌（15件）、独立（8件）のコメント確認することができ、議論の中で香港ナショナリズムも高まったことが推測される。実際、「私は香港出身で国籍は香港だ」「国籍は自分で定義するものだ」「これから自分の国籍は香港と記入するように」といった国籍に関する議論も確認することができた。また、『Glory to Hong Kong』の内容を肯定的にするか否かで他国の国歌や抗議歌と比較される例があった。

はじめに比較対象となった国歌はイスラエルの国歌であった。あるユーザーはイスラエルの国歌を紹介し、#1197で「国の恥（歴史）を忘れないために哀愁漂う国歌にしており、香港人はいつも（歴史を）忘れやすい」とコメントした。その投稿に対し作者は#1213で「そこまで寂しい国歌は作れない」 と返信した。同一ユーザーは日本について大国だが国歌は良くないと否定的な言及し、Glory to HKに関しては神聖だが中華民国国歌の三民主義歌より眠くなると言及したが議論には発展しなかった。その後、＃2214の「革命時期に関する歌詞を記述すべきであり、国が誕生したとき（独立した時）の国歌に適した歌詞を入れよう。ロシアの国歌はソビエト時代の歌詞を変えたものである。」という投稿をきっかけにロシアの国歌に関する言及がされるようになった。「ソビエトは嫌いであるが曲には憧れがある」といった投稿もされた。実際、ロシアの国歌はソ連時代の国歌と全く同じ曲を使用している。現在の歌詞は1977年にソ連の国歌の作詞を担当したセルゲーイ・ミハエルコフが改めて作詞したものであり、2000年12月30日に新たなロシア国歌とした誕生したものである。 (上野2000,pp.4-5）作者は＃2270で「ソ連の国歌はレーニン、共産党に関する記述が多い」と言及し、以降ソ連に関する議論は行われることはなかった。韓国の『光州抗暴紀念歌』や香港の『The March of Royal Hong Kong Regiment』『香港之歌』のリンクも紹介されたが、紹介だけに留まり議論に発展することはなかった。国歌に関する投稿が63件確認できたのにもかかわらず、「独立」に関する投稿は8件のみ確認することができた。

議論の中では曲、歌詞がキリスト教の賛美歌（聖詩、讚美歌、教會歌）に似ているという議論も5件されているが、作者は＃1040で「私は皆と皆の理念を代表したAnthemを作った。それは賛美歌になることもあれば、軍歌になることもできる」と投稿した。また、#1487で「クリスチャンではないので似ているかどうかわからない」　とも投稿した。作者自身がインタビューで海外の国歌や軍歌を参考に歌詞を作ったと言及していることからも荘厳なメロディーやタイトルは賛美歌を彷彿させるものになっている。デモの現場で賛美歌が歌われるほどキリスト教が身近な香港においても、一定数は賛美歌及びキリスト教に対して否定的な考えを持つということが見て取れた。

#1197有冇諗過國歌可以係以色列咁哀怨啲 令人毋忘國恥 始終香港人都係善忘

=イスラエルは国の恥（歴史）を忘れないために哀愁漂う国歌にしており、香港人はいつも（歴史を）忘れやすい

#1213我作唔到咁哀怨

=そこまで寂しい国歌は作れない

#2214 我嘅諗法係而家嘅用途係軍歌 所以要應該填革命時期嘅歌詞入去真係建左國時會同用同一首歌改做適合國歌嘅歌詞 可以參考俄羅斯將蘇聯國歌改詞既case

=革命時期に関する歌詞を記述すべきであり、国が誕生したとき（独立した時）の国歌に適した歌詞を入れよう。ロシアの国歌はソビエト時代の歌詞を変えたものである。

#2270 ussr版歌詞好多歌列寧既黨

=ソ連の国歌はレーニン、共産党に関する記述が多い

#1040我作既係一首anthem代表一群人/一班人既理念可以係讚美歌 可以係軍歌。

=私は皆と皆の理念を代表したAnthemを作った。それは賛美歌になることもあれば、軍歌になることもできる

#1487利申唔係耶徒 未聽過 好在聽一聽唔太似(?)

=クリスチャンではないので似ているかどうかわからない

**4-4. 英語翻訳**

＃1815で作者が英語の翻訳を作るよう呼びかけ、4件の英語版の投稿がされたが、それらがそのまま英語版の歌詞に使われることはなかった。YouTubeの投稿内容によると英訳を担当したのはDr. Rubbish Teenと眾連登仔（連登ユーザー）と表記があり、Dr. Rubbish Teenと名乗る制作メンバーが主な作詞を担当したことがわかる。インターネット上で英語版の歌詞を検索すると複数の英語版歌詞がヒットするが、YouTubeに投稿された歌詞が正式版であると考えられる。歌詞は広東語の歌詞同様、昔の英語で書かれているが、いくつか表現は原文と異なるため、翻訳にあたり歌詞の内容を変化させたことがわかる。一つの例としてはA1の３行目に「Arise! Ye who would not be slaves again」とあるがこれは中国国歌の導入部分である「起来！ 不愿做奴隶的人们」と酷似しており、中国国歌を意識して作られたものだと推測できる。日本語にすると「立ち上がれ、奴隷になりたくない者たちよ」となり、中国共産党及び香港政府に抗議する市民の士気を高める歌詞となっていることが推測できる。

英語版歌詞[[12]](#footnote-12) (YouTubeの投稿から引用)

We pledge: No more tears on our land,

In wrath, doubts dispell’d we make our stand.

Arise! Ye who would not be slaves again:

For Hong Kong, may Freedom reign!

Though deep is the dread that lies ahead,

Yet still, with our faith, on we tread.

Let blood rage afield! Our voice grows evermore:

For Hong Kong, may Glory reign!

Stars may fade, as darkness fills the air,

Through the mist a solitary trumpet flares:

Now, to arms! For Freedom we fight, with all might we strike!

With valour, wisdom both, we stride!'

Break now the dawn, liberate our Hong Kong,

In common breath: Revolution of our times!

May people reign, proud and free, now and evermore,

Glory be to thee, Hong Kong!

英語版を作曲した目的としては大きく二つの理由が考えられる。一つ目は世界中のより多くの地域にこの曲を発信し、香港の現状を知ってもらうためである。「響透」で言及したように、今回の抗議活動の中では国際社会への訴えが至る所で行われていることが挙げられる。G20の前にはネット上で各国主要紙への前面広告掲載を目的としたクラウドファンディングが行われ、わずか9時間で670万HKD(9000万円以上)を集めることに成功した。その結果、フィナンシャルタイムズ、ニューヨークタイムズ、朝日新聞をはじめとした各国の主要メディアに香港に関する大きな広告が掲載された。(倉田徹2019,p.39) 8月19日には香港の政党である香港衆志（Demosisto）も日本経済新聞に「自由のため香港と共に」という意見広告を出し反響を呼んだ。実際に海外のデモにおいてもこの歌が歌われたことから英語版は上手く機能したと評価することができる。

二つ目は香港市民のためであると考えられる。2018年に香港政府が公開したデータによると2016年時点で全人口の約92パーセントが漢民族である一方で、残りの8%にあたる約60万人は外国人である。[[13]](#footnote-13)　中でもドメスティックワーカーとして雇われているフィリピン人（32%）とインドネシア人（26%） の合計は外国人人口全体の過半数を占めている。また、英国の植民による影響でインド人（6%）、ネパール人（4%）、パキスタン人（3%）も今なお香港で生活をしている。香港で生活をする一部の外国人は広東語を話すが多くの外国人は広東語に親しんでいない。そのため皆が話すことのできる英語でも歌詞を作り、市民の士気を高めたのではないかと考えられる。

**4-5. 歌詞が二つ誕生した経緯**

当初は作者Thomasが投稿した一つの歌詞だけであったが、#508の「香港人は本格的な広東語の歌に聞きなれていないから二つの歌詞が欲しい」という投稿がきっかけとなり二つの歌詞が誕生したと推測することができる。#1186の「当初の歌詞が一番だ」という投稿に対しては、Thomasは＃1890の「通常版と戦闘版の二つの歌詞を考えている」と答えた。その後Thomasは改めて#2085「通常版、戦闘版、希望版の三つの歌詞を考えており、帰宅したら投稿する。」と投稿したが、後に希望版が投稿されることはなかった。Thomasによる戦闘版の歌詞に関する投稿は一度あったが、歌詞について議論されることはなく、基本的には通常版が議論の中心となった。そして8月28日13時にThomasは完成した通常版と戦闘版の二つの歌詞を同時に発表した。しかし、この段階では両版のA3パートの一部を「獲勝利 (時代革命)」と表記し、獲勝利（勝利を掴む）か時代革命（時代の革命だ）のどちらを採用するかまでは録音するまで決定できていなかった。

#508 歌詞可以整兩個版本先？（省略）香港人仲未聽慣純粵語認真歌

= 歌詞を二つ作れますか？「香港人は本格的な広東語の歌に聞きなれていないから二つの歌詞が欲しい」

#1886　覺得樓主原版個詞最好）

= 当初の歌詞が一番だ

#1890 整緊1個通用版1個戰鬥版歌詞

=通常版と戦闘版の二つの歌詞を考えている

#2085唔洗咁緊張 我有一直諗歌詞 而家分3version歌詞 通用版 戰鬥版 希望版  返去再post

=通常版、戦闘版、希望版の三つの歌詞を考えており、帰宅したら投稿する。

**第五章　考察**

2301件の議論の中では歌詞や曲に関する議論だけではなく、他のデモの紹介やナショナリズムに関する議論など様々な議論が同時進行で行われていたことが見て取れた。歌詞に関しては、議論を経て歌詞の8箇所が変更されたことが草案との比較から明らかになった。中でも、受動的な表現が能動的な表現に変わり、「光復香港、時代革命」の文字が追加されたことから自分たちの手で主体的に香港を取り戻すという民意が反映されたことが判明した。広東語版でも英語版でもフォーマルな歌詞にすべく、口語体よりは文語体で厳粛かつ明白な表現が採用されたこともわかった。その他にも、曲のキーを変える動きや英語版の歌詞が作られたことから、曲として響きが良いだけでなく国籍や性別を問わず皆で一緒に歌える歌にしたいという民意が反映されたと分析した。

議論を通して、ナショナリズムが高揚し、独立を掲げる声や香港国歌だと主張する動きも確認することができた。その中には、香港の独自性を出そうと香港のアイコンを歌詞に入れようとする動きも見られた。一部の紹介にはなるが、香港独立を掲げるユーザーの一人には、勝利という能動的な表現を好み、『Glory to Hong Kong』を軍歌と呼び、日本国歌、中華民国国歌（三民主義歌）、イスラエル国歌の三つに言及する動きが見られた。香港国歌とコメントするユーザーの一人には、香港らしさを歌詞に入れようとする提案、戦闘中に軍歌があることの素晴らしさを主張するコメント、キーの変更を求める提案を確認することができた。このように軍歌や国歌を主張するユーザーの中には、他国の国歌との比較、歌詞や技術面での提案を通し、どのようにすれば本物の国歌に近づけられるか追求する動きがあったことがわかった。国歌を主張する投稿に対し独立を掲げる投稿は非常に限られていたため、歌の制作に当たって香港市民が求めていたものは独立ではなく、歌詞に多く登場する「自由、民主」及び市民の団結を強める「歌」であったと推測した。

『Glory to Hong Kong』が瞬く間に世に広まったことについては、大きく二つの理由が考えられる。一つ目は歌詞の募集、歌の拡散にインターネットを用いたことだ。インターネットの持つ発信力、拡散力を生かして議論を行い、多言語で世界中に発信したことが、歌が世に広まる大きなきっかけになったのではないかと考えた。また、リーダー不在の抗議活動において、作者のThomasが中心となってオンライン上で民主的な議論を行い、市民の民意を正確に汲み取った歌詞を作ったことも歌の支持を集める要因になったと推測した。二つ目は市民が誇りを持って歌えるAnthemを求めていたことによる。香港の国歌は中国の義勇軍行進曲であり、スタジアムや卒業式で国歌斉唱を拒む市民が度々問題になることがあった。その中で、西欧諸国の軍歌や賛美歌を参考にした荘厳なメロディーに広東語の歌詞が付けられた曲はまさに香港市民が求めていたAnthemであったのではないかと推測した。

分析を通して印象的であったのは、議論を通して建設的な投稿が多く、否定的な意見がほとんど見られなかったことである。曲が完成するまでに426のユーザーが議論に参加していたが、主張や歌の方向性をめぐって対立することはなく、皆が一致団結して誇れる歌を作ろうとしていたことがわかった。連登は極めて匿名性の高い掲示板であるため、ユーザーの属性や政治的立場までは分析することができないが、抗議運動の場で広く使用されているため様々な立場のユーザーがいると考えられる。このようなお互いを尊重し合う動きはデモのスローガンにもある、「兄弟爬山，各自努力」（同じ山に登る同士、それぞれが努力しよう）の現れであり、倉田明子（2019,p185-188.）や小栗(2019,p.291)が指摘したように勇武派も和理非派も互いに協力しあって団結することに成功したのではないかと判断した。

本研究は日本人の筆者が香港の友人に翻訳を手伝ってもらいながら、2301件の議論を質的に分析したものである。そのため、分析の過程で投稿内容の正しい解釈ができていない可能性がある。また、香港の教育機関が発行するメールアドレスを有していないため、連登上で本来言及すべきデータにアクセスできていない可能性もある。しかし、まだ明らかにされていない『Glory to Hong Kong』誕生までの議論のプロセスを分析したこと、市民の民意がどのように曲に反映されたかを示したことには一定の意義があったと考える。

**参考文献**

「文献」

AFP通信　2019年1月10日　香港、中国国歌の侮辱罰する法案提出へ 最高で禁錮3年 <https://www.afpbb.com/articles/-/3205759> (2019年10月1日閲覧)

Charley Lanyon 2019 Hong Kong protest songs: 7 anthems of the anti-extradition movement – do you hear the people sing? South China Moring Post 2019年9月12日<https://www.scmp.com/lifestyle/arts-culture/article/3026843/hong-kong-protest-songs-7-anthems-anti-extradition-movement>（2019年10月1日閲覧）

外務省　2018年3月4日　香港基礎データ<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html#01> (2019年10月1日閲覧)

林泉忠 2005「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス 明石書店 pp.216-128.

香港特別行政区 2020 香港特別行政区基本法 <https://www.basiclaw.gov.hk/en/basiclawtext/images/basiclaw_full_text_en.pdf>　（2020年5月1日閲覧）

香港特別行政区政府一站通　2020年2月　Hong Kong – the Facts

<https://www.gov.hk/en/about/abouthk/facts.htm> 　(2020年5月1日閲覧)

香港特別行政区政府一站通　Racial Relation Unit Home Affairs Department　2018年1月16日　Information Center The Demographics : Ethnic Groups <https://www.had.gov.hk/rru/english/info/info_dem.html>

(2020年5月1日閲覧)

倉田明子　2019 ネットが作る「リーダー不在」の運動　-通信アプリ「テレグラムから見る運動のメカニズム」 -　倉田徹・倉田明子（編）香港危機の深層　東京外国語大学出版会　pp.168-191.

倉田徹　2019　逃亡犯条例改正問題のいきさつ-法改正問題から大勢の危機へ-　倉田徹・倉田明子（編）香港危機の深層　東京外国語大学出版会　p.39.

倉田徹・チョウイックマン　2015年 香港　中国と向き合う自由都市 岩波新書 p155.

倉田徹 2017“雨傘運動とその後の香港政治-一党支配と分裂する多元的市民社会- ”特集:中国の「台頭」と周辺の「反乱」,63 pp.74-75,83. <https://www.jstage.jst.go.jp/article/asianstudies/63/1/63_68/_pdf/-char/ja>

Lea Li 2019‘Glory to Hong Kong’: the composer of the city’s protest anthem speaks South China Morning Post 2019年9月25日<https://www.scmp.com/video/scmp-originals/3030172/glory-hong-kong-composer-citys-protest-anthem-speaks> (2019年10月10日閲覧)

LIHKG 2019年8月26日　作左首軍歌幫大家回血《願榮光歸香港》 招virtual合唱 [https://lihkg.com/thread/1507129/page/1](https://lihkg.com/thread/1507129/page/1%E3%80%80%282020)　（2020年7月25日閲覧）

益満雄一郎　2020　禁じられた香港デモの歌　-国歌法施行後、学校で歌えず　作曲者「光を信じる」　朝日新聞　東京本社　夕刊　2020年7月27日

Mathews, Gordon, Lü Dale, and Jiewei Ma. 2008. *Hong Kong, China : Learning to Belong to a Nation*. Routledge Contemporary China Series, 23. London: Routledge. pp.148-167.

松谷 曄介　2016年　キリスト教（プロテスタント）　-中港矛盾に揺れるプロテスタント- 吉川雅之・倉田徹（編）　香港を知るための60章　明石書店　pp.281-285.

村井寛志 2016返還後の「香港人」のアイデンティティの展開 -大陸との関係で揺れ動く住民感情 -吉川雅之・倉田徹編著　香港を知るための60章　赤石書店、pp.83-85.

村井寛志2019香港人アイデンティティは “香港独立”を意味するのか？- 香港“独立”批判と“自治”をめぐる言説史から- 倉田徹・倉田明子編 『香港危機の深層』　東京外国語大学出版会, pp.196,200.

小栗宏太　2019 香港デモの記号学　-パロディー、広東語、ポップカルチャー-倉田徹・倉田明子　香港危機の深層 東京外国語大学出版会pp.291,293

銭俊華　2020 香港と日本　-記憶、表象、アイデンティティ- 　ちくま書店pp.151-152.

User Local AIテキストマイニング　<https://textmining.userlocal.jp/>　(2020年5月1日利用)

Rest of world 2020年4月Burning threads How a raucous internet forum became ground zero for the Hong Kong protests <https://restofworld.org/2020/lihkg-hong-kong-protests-forum/>　（２０２０年5月1日閲覧）

South China Morning Post 2019年8月16日 Hong Kong protests fuel uptake of encrypted Telegram, Reddit-like LIHKG apps　 <https://www.scmp.com/tech/apps-social/article/3022934/hong-kong-protests-fuel-uptake-encrypted-telegram-reddit-lihkg>　　（2020年5月1日閲覧）

谷垣真理子　1998 香港住民のアイデンティティーに関する一考察 : 電話聞き取り調査の結果を中心にして 東洋文化研究所紀要 135 p.74,100 -101 <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=27100&item_no=1&attribute_id=19&file_no=1>

Tim Rühlig 2016“*Do You Hear the People Sing”“Lift Your Umbrella”? -Understanding Hong Kong’s Pro-democratic Umbrella Movement through YouTube Music Videos-*, China Perspectives 2016/4 pp.59-68.

上野俊彦　2000　プーチン政権とロシア国内情勢　ロシア東欧学会年報, 2000, pp4-5. <https://www.jstage.jst.go.jp/article/jarees1993/2000/29/2000_29_1/_pdf/-char/ja>

「動画」

China Global Television Network 2019年8月17日China's national anthem: A melody of unifying power that resonates through HK as violence divides

<https://www.youtube.com/watch?v=BX7up2NNXd0>　（2019年10月1日閲覧）

Dgx music 2019年8月29日《願榮光歸香港》anthem ver3.0 正確歌詞版 <https://www.youtube.com/watch?v=TvNRAefh3SE&t=3s>　　(2020年6月1日閲覧)

Dxg music 2019年8月31日　DGX -《願榮光歸香港》原版 《Glory to Hong Kong》First version (with ENG subs)　<https://www.youtube.com/watch?v=y7yRDOLCy4Y>　　（2019年10月1日閲覧）

Dxy Music 2019年9月24日　《Glory to Hong Kong》 《願榮光歸香港》English Version　<https://www.youtube.com/watch?v=jXZNOecZreY>　（2020年5月1日閲覧）

**終わりに**

香港らしさとは一体何なのか？香港アイデンティティーとは一体何なのか？私が香港社会に興味を持ったきっかけは小学一年生の頃に購入した一冊の世界図鑑であった。中国のページを眺めていた際に英国国旗と中国国旗の二つが掲げられた香港の返還式の写真を見て、小さいながらも香港とはどんな地域なのか関心を持ったのだ。高校時代、雨傘運動の報道に加えて、香港出身の友達が自己紹介でイングリッシュネームを名乗り「I’m from Hong Kong. I speak both English and Cantonese.」と話す姿を見て、かつて抱いていた香港への興味が再び大きなものとなった。そして大学入学後は中国語及びアジア社会を広く学び、３年生の秋学期から1年間香港中文大学で交換留学を実現することができた。

西洋と東洋の文化が融合した香港はなんともユニークで、沢木耕太郎氏の『深夜特急』に描かれた雑多で活気のある社会は毎日が刺激に満ち溢れていた。また、言語、社会制度、交通機関、食文化、宗教、歴史的建造物など様々な場面で英国統治の足跡を感じることができた。中文大学では人類学、社会学に関する授業を中心に履修し、香港と中国の関係性、香港土着の文化、香港アイデンティティーについて学んだ。座学だけではなく、立法会の見学、新界の粉嶺にある客家村でのフィールドワーク、19世紀から伝わる大杭の舞火龍（ファイヤー・ドラゴン・ダンス）の見学など恵まれた環境で香港社会を学ぶことができた。

帰国して卒業論文のテーマを選ぶ際に、「香港アイデンティティ」及び「英国統治時代の歴史保全」の二つに関心があり中々テーマを定めることができなかった。そんな中、小熊英二先生から発表で言及したデモ歌『Glory to Hong Kong』がどのように誕生したかを探ってみたら面白いのではないかというアドバイスを頂き、研究を開始することにした。もともと中国語の知識はあったが、広東語に関しては一度も勉強したことがなかったため、本当に研究を進められるのか大きな不安があった。しかし、香港留学中に知り合った二名の友人からの大きな協力があり、初めは未知なる文字の羅列であった電子掲示板も、少しずつ市民が発信するメッセージを理解できるようになり、暗号を解読していくような楽しさを持って分析に励むことができた。2年間に渡りきめ細やかな指導をして下さった小熊英二先生、ご多忙の中研究のアドバイスを下さった倉田徹先生、夜遅くまで翻訳を手伝ってくれた香港の素晴らしい友人達に感謝の意を表し謝辞としたい。

最後に、私がこれまでの大学生活及び1年間の香港留学を通して学んだことは香港のごく一部にすぎず、急速に変化し続ける多様な香港社会を一言で表すことはできないと考える。しかし、私が香港らしさとは何かを一言で表すのであればそれは「寛容さ」であると考える。もちろん、香港を象徴するアイコンはいくらでも存在するが、真の香港らしさとは、乾いたスポンジのように異国から多様な文化、社会制度、思想を吸収し、取り入れることだと思う。その寛容さこそが香港の魅力である多様性、自由な社会に繋がっていると考えた。香港国家安全維持法の施行を受け、これからの香港社会は中国政府による大きな影響を受けることが予想されるが、「寛容さ」によって作り上げられた香港の財産がこれからも尊重されることを強く願っている。

1. 外務省　2018年3月4日　香港基礎データ<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html#01>

(2019年10月1日閲覧) [↑](#footnote-ref-1)
2. 香港特別行政区政府一站通　2020年2月　Hong Kong – the Facts <https://www.gov.hk/en/about/abouthk/facts.htm> 　(2020年5月1日閲覧) [↑](#footnote-ref-2)
3. 香港特別行政区政府　Racial Relation Unit Home Affairs Department　2０１８年1月16日　Information Center The Demographics : Ethnic Groups <https://www.had.gov.hk/rru/english/info/info_dem.html>　(2020年5月1日閲覧) [↑](#footnote-ref-3)
4. China Global Television Network 2019年8月17日China's national anthem: A melody of unifying power that resonates through HK as violence divides　<https://www.youtube.com/watch?v=BX7up2NNXd0>　　（2019年10月1日閲覧） [↑](#footnote-ref-4)
5. Lea Li 2019‘Glory to Hong Kong’: the composer of the city’s protest anthem speaks South China Morning Post 2019年9月25日<https://www.scmp.com/video/scmp-originals/3030172/glory-hong-kong-composer-citys-protest-anthem-speaks> [↑](#footnote-ref-5)
6. Dxg music 2019年8月31日　DGX -《願榮光歸香港》原版 《Glory to Hong Kong》First version (with ENG subs)　<https://www.youtube.com/watch?v=y7yRDOLCy4Y>　　　（2019年10月1日閲覧） [↑](#footnote-ref-6)
7. User Local AIテキストマイニング　<https://textmining.userlocal.jp/>　(2020年5月1日利用) [↑](#footnote-ref-7)
8. User Local AIテキストマイニング　<https://textmining.userlocal.jp/>　(2020年5月1日利用) [↑](#footnote-ref-8)
9. [↑](#footnote-ref-9)
10. LIHKG 2019年8月26日　作左首軍歌幫大家回血《願榮光歸香港》 招virtual合唱 [https://lihkg.com/thread/1507129/page/1](https://lihkg.com/thread/1507129/page/1%E3%80%80%282020)　（2020年7月25日閲覧） [↑](#footnote-ref-10)
11. Dgx music 2019年8月29日《願榮光歸香港》anthem ver3.0 正確歌詞版 <https://www.youtube.com/watch?v=TvNRAefh3SE&t=3s>　　(2020年6月1日閲覧) [↑](#footnote-ref-11)
12. Dxy Music 2019年9月24日　《Glory to Hong Kong》 《願榮光歸香港》English Version　<https://www.youtube.com/watch?v=jXZNOecZreY>　（2020年5月1日閲覧）　 [↑](#footnote-ref-12)
13. 香港特別行政区政府　Racial Relation Unit Home Affairs Department　2０１８年1月16日　Information Center The Demographics : Ethnic Groups <https://www.had.gov.hk/rru/english/info/info_dem.html>　(2020年5月1日閲覧) [↑](#footnote-ref-13)